

曾於文藝

うたごよみ

俳句

末吉俳句会

坂道の息継ぐところ母子草

児玉 典子

立ち話する間の距離の蟻の道

泊 康

風さやぐ空に溶け込む若葉かな

原口 サエ子

大陽俳句会

甘藷植う景を遮るものは無し

岩重 みどり

亡き夫と歌ひし浜辺卯浪寄す

福村 よう子

夏草を抜きに抜きやるひと日かな

逆瀬川 節子

短歌

末吉短歌会

窓ガラスを金のびょうぶに染めあげて

西の彼方に陽は沈みゆく

草野 ミツ子

題字

末吉文化協会会員 瀬戸口 淳民氏

スイトピーピンというピンに飾り入れ
甘えるように歌ってみたり

泊 康

淡青のイヌノフグリは畑の端
小花は揺れて鋏に剥がさる

大森 巳喜生

大陽短歌会

クンシランの荅は淡き緑色
ときめきの時葉をかきわけける

竹内 娃子

帰り来しつばめの声を聞く朝
「ただいまでした」とわれは聞きたり

加塩 秀子

しとしとと降る雨に気も滅入りする
カラオケ歌って気分転換

入来 レイ子

財部短歌会

花咲けば亡母が好みし並木道
面影求めて空を見上げる

脇丸 洋子

あわ雪が降るごとさくら舞い落ちて
子等のたわむれ公園の午後

永岡 冴子

薩摩狂句

にがごい会末吉支部

俺が地面で 隣の筍
潜つきつ

鈴木 一泉

筍ん 煮しめで焼酎が
倍いけなっ

古川 一幹

筍ん 料理で痩せろち
肥満婆

桐野 奈世

味噌汁い こさん筍こ
味ずそえつ

浜田 一好

大陽薩摩狂句会

其ん頭脳 惜ね事じゃが
詐欺き使つ

神宮司 素水

小けどん 技で勝つちよい
見事て相撲

福元 多喜子

看板医 丸いになった背で
ままだも診つ

境 すやすや

卑しで 見た物の度
好つち言つ

西山 美代子